

公開講座「SDGs 教育フォーラム@トヨタ白川郷自然学校」

実施報告

- 開催趣旨 ESD※1の発展形もしくは実践型としての「SDGs※2の教育」を深化させるための研究と実践をつなぎ、特に若手研究者の交流の場を設けるために2泊3日で実施。講師3名を招き、SDGsの実情、最新の情報を学ぶ。
- 対象者 学生、研究者、企業、教職員、省庁及び自治体職員、農林漁業従事者、NGO/NPO関係者、オルタナティブ教育（フリースクール、自然学校など）の関係者など
- 日程 2018年11月4日（日）～11月6日（火） 3日間
- 会場 トヨタ白川郷自然学校
- 参加者数 89人（のべ人数）
内訳：1日目30人／2日目30人／3日目29人
- 主催 SDGs教育研究会（代表者：阿部治／立教大学ESD研究所所長）
- 共催 日本環境教育学会「SDGsの教育」研究会、立教大学ESD研究所
- 協力 トヨタ白川郷自然学校

※1 ESDとは「Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育）」の略称。

※2 SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称。
2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016～2030年の15年間で達成するために掲げた目標である。

－ 実施内容 －

1日目 11月4日(日)

8:00 新宿工学院前 出発

バス移動、昼食

15:30 トヨタ白川郷自然学校 到着、チェックイン

17:00 開会式

夕食(研修室)

2日目 11月5日(月)

7:00 朝食(レストラン)

8:30 自然学校「朝のガイドウォーク」プログラム体験 ※自由参加

10:00 白川郷世界遺産合掌集落の見学

昼食(合掌集落内)

13:00 講演①+ディスカッション

15:00 講演②(研修室)

17:30 夕食(レストラン)

19:00 まとめ、懇親会(研修室)

3日目 11月6日(火)

7:00 朝食(レストラン)

10:00 講演③+ディスカッション(研修室)

12:00 昼食(レストラン)

13:00 自然学校出発

バス移動

20:00 新宿工学院前到着、解散

【講演要旨①】 「SDGs の視点からみた生物多様性」

講師／
日経 BP 社 日経 ESG 経営フォーラム シニアエディター 藤田 香 氏



出身は富山県ですが、地元に住いた頃は自然には興味はありませんでした。大学でクライミングが趣味になり、それが高じて海外で地質研究、現在は経済畑にいる私です。しかし SDG's は昨今経済界では大変重要視されていて、今の仕事と大きく関わっています。

今、経済界では SDG's と ESG という二つの言葉が時代の鍵だと言われています。ESG とは、環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) の頭文字を取ったものです。今日、企業の長期的な成長のためには、ESG の 3 つの観点が必要だという考え方が世界的に広まっています。ESG の観点が薄い企業は、大きなリスクを抱えた企業であり、長期的な成長ができない企業だと見られる考え方が、企業の株主である投資家の間で急速に広がってきています。ESG は企業の価値を評価する指標として、SDGs は評価のための共通言語になりつつあり、SDG's に基づいた事業戦略を打ち立て、積極的に発信する企業も増えてきました。プラスチック製品の使用の中止、再生エネルギーの開発など、世界の潮流は「脱炭素」「非化石化」に向かっています。

「RE100」という国際イニシアチブをご存知ですか。事業運営を 100%再生可能エネルギーで調達することを目標に掲げる企業が加盟するイニシアチブで、「Renewable Energy 100%」の頭文字をとって命名されています。「再生可能エネルギー」とは、水力、太陽光、風力、地熱、バイオマスを指し、原子力発電は含みません。加盟するには、事業運営を 100%再生可能エネルギーで行うことを宣言しなければなりません。多くの現加盟企業は、100%達成の年を同時に宣言しています。100%達成は、企業単位で達成することが要求され、世界各地に事業所がある企業は、その全てで 100%を達成しなければなりません。様々な分野の企業 144 社が加盟していて、日本はソニー、リコー、富士通、イオン、丸井グループ、積水ハウス、大和ハウス、他にもアスクル、ワタミなどが加盟しています。このように、生物多様、自然資本経営は SDG's に貢献できる部分が多いのです。

【講演要旨②】 「白川村の未来の担い手を育てる白川郷学園の教育」

講師／
白川村立白川郷学園校長 水川 和彦 氏



平成 29 年に従来の白川小学校と白川中学校が岐阜県初となる義務教育学校として開校。小中学校 9 年間の教育活動を一貫して行い、白川郷学園では 1～9 年生計 116 人が学んでいます。特色として村民憲章を元とするふるさと学習、9 年間一貫カリキュラムだからできる英語教育 SEE、様々な分野からの外部講師による特別授業を実施しています。

平成 26 年度から立ち上げたコミュニティスクール、平成 29 年度開校した義務教育学校としての仕組みを生かし、教育目標「ひとりだち」の要素となる「自立」「共生」「貢献」の 3 つの資質を 9 年間かけて育成する教育を展開しています。義務教育学校の最も大きな特色は、切れ目のない 9 年間の教育課程を一貫して実施できることです。このことは、教師側からすれば 9 年間の成長の階段をゆるやかに確実に実感を伴って子ども自身に登りきらせることができることを意味します。同時に、児童生徒からすれば、「自らの 9 年先を見通し、9 年前を振り返ることができる日常の学校生活がそこにある」ことが最大の特徴です。

9 年間一貫カリキュラムでは早い段階から教科担任制をとることにより、英語や音楽、図工といった専門性の高い教科について発達段階を意識した授業が進められるメリットがあります。児童生徒数 116 名に対し、33 名の教師がいることで 3.5 人の児童に対し 1 人の教師がいることで手厚いサポートができるのも義務教育学校のメリットでもあります。

ふるさと学習では村の人材をフル活用し、村民憲章を元として、段階的にふるさと白川村について学び 9 年生になった時に、村に対して自分が何をできるのかを提案することを目指し取り組んでいます。ふるさと白川郷の自然や歴史、伝統、文化、村の行財政の仕組みについて、各教科の学習と関連させて学んでいきます。また、人権教育、消費者教育といった課題の教育も関わらせながら、村の担い手を育てる学びを深めています。

【講演要旨③】 「ソーシャルデザインとコミュニケーション」

講師／
一般社団法人 Think the Earth 理事 上田 壮一 氏



社会の無関心を解決することを目標として Think the Earth（地球的視野で考え行動する人や企業）を設立。宇宙飛行士のように宇宙から地球を見る感覚を提供する地球時計 wn-1 を開発する等、メッセージ性の高い商品開発プロジェクトとしてスタートしました。モノとしての高い完成度を目指しながら、同時に購入者がコトとしての Think the Earth に参加して、共に持続可能な社会を目指す学びや行動を始めることを目的としています。

その後、社会の無関心は徐々に改善されつつあり、特に東日本大震災以降、日本でも多くの人が社会や環境、そして未来に関心を寄せるようになりました。一方、世界では SDGs が作られました。最近の活動は、そうした関心をもった人達と、どこへ向かうのか？を問いに、長期的な視点で自ら考え、行動できる「ヒトづくり」へとシフトしています。

ヒトづくりの具体的な活動として行政、企業と協力して SDGs をテーマに教育活動や社会実験等を行っています。学校教育者向けに「未来の為に学ぶ」を意識した教材の制作や労働問題を社会に訴えかける社会実験等を実施しました。どちらも SNS 等を利用して人々が自発的に社会へと訴える活動へ繋がりました。これらの活動には、自分事と他人事の障壁を取り払い、「人は何故社会や環境問題が自分事にならないのか」という意識をもたせることが大切です。

SDGs 達成へのヒトづくりの活動には、問題のステージを意識し、最終的に社会変容を狙えるようなソーシャルデザインが必要です。そのために、まず問題を認知し、心を動かす心理変容、活動や行動を促す行動変容の段階を経る必要があります。「どのように言葉で伝えられないことを伝えるか」、「どのように人の心を巻き込むか」を意識し、個々人に留まらず、人々が自発的に活動を起こせるようなコミュニケーションを促すソーシャルデザインで SDGs を達成していきましょう。

今回の成果と今後の展望

日本環境教育学会「SDGs 教育研究会」代表・立教大学ESD研究所長
阿部 治 氏

本研究会は日本環境教育学会特設研究会として2018年8月に設置されました。その意図は同学会の主要な研究テーマであるESD（持続可能な開発のための教育）がSDGs推進のためのエンジンとして位置づけられることから、今後のSDGs推進に向けてESDの基本的枠組みと到達点を理解したうえでSDGs実現に向けた教育の在り方について検討することです。

このような意図で発足した本研究会は、定期的な非公開の学習会（書籍刊行を目指している）と公開学習会を行っています。研究会としての最初の公開学習会は8月に開催された日本環境教育学会年会における長沢恵美子氏（経団連）によるもので、主に経済界によるSDGsの取組を知ることができました。白川郷セミナーはこの企画に続く第2弾の公開セミナーでして、最先端をいく一流の講師陣を迎えた合宿形式による深い討論と参加者のネットワークの構築を意図する本研究会最大のイベントとして位置づけられています。

今回の参加者からのアンケート結果から、3名（内、1名は地元白川郷のESDへの理解を促すために白川村立義務教育学校校長を招聘、他2名は主に「自然資本・ESGの視点」からと「コミュニケーションとソーシャルデザインの視点」からSDGsにアプローチ）の講師陣への評価は極めて高く、企画の趣旨は達成されたといえます。また、意図したネットワークの構築についてもほぼ達成されたといえます。しかし、プログラム全体の時間的制約のために討議の時間が短く、参加者同士の深い学びという点については若干の課題が残されました。

白川郷という開催地のアドバンテージも世界遺産地域の視察、トヨタ自然学校による環境教育プログラム（朝の散歩）、白川村立義務教育学校による白川郷学に触れることで最大限に発揮されたといえます。

次年度への展望としては、学生がより参加しやすい開催時期が望ましいことから、11月から9月の夏季休暇中に移し、深い討論ができるようなプログラム構成に変更することを計画しています。今年度同様、最先端をいく一流講師陣を招聘し、トヨタ自然学校・白川村とのコラボを実現することで定番としての白川郷セミナーを構築すると共に白川村との社会連携にもつなげたいと考えています。すなわち、白川村の持続可能な発展に寄与することも本セミナーの目的の一つに加えたいです。また、今回は実現できませんでしたが、トヨタ自動車によるSDGsを含む持続可能な社会への取組について拝聴する機会ができれば、参加者によるトヨタ自動車への理解を促す一助になるのではないかと考えます。

－ 参加者の声 －
(アンケート結果より抜粋)

参加者 29 名中 16 名回答

*回答には性別/年齢層/居住地の記載はなし・自由回答

【問1】参加されたきっかけは何ですか？また、参加の目的は達成できましたか？

- ・立教セカンドステージ大学の夏期集中講義で阿部先生から紹介されたことがきっかけである。講義でESDの地域創生を学んだこと、そしてSDGs教育(自然学校)に関心をもったことにより、今回のフォーラムに参加して自然学校の理解を深めることができたことが良かったと思う。
- ・某地方自治体と大学の連携での市民向けSDGs関連の仕事の打診を受けたため情報収集の目的で参加した。環境教育という視点のみでなく企業やコピーなどの異なる視点の情報が新鮮であった。
- ・SDGsについて何も知らなかったなので、知りたいと思った。目的は達成できたかと思う。自分の研究で何ができるのか、何をすべきなのかが分かり、実践に取り込むことができた。SDGsがこの研修会でやっと「自分ごと」になった！
- ・RSSC本科のクラスメイトからこのフォーラムの案内をもらった。今年夏西伊豆町の夏季集中講座でSDGsに興味があったのと、白川郷にいったことがないのでぜひ参加したいと思った。SDGsの講義も面白く、また白川郷の合掌作りも素晴らしかった。
- ・研究室のゼミ合宿という形で参加した。目的は、1つのシンボル(白川郷)を中心としてどのように地域社会づくりの計画がなされていたのかを知ることだったが、見学や講演会を通しておおむね達成できたと感じる。
- ・東京農工大学大学院のゼミナールとして参加した。2日目までの参加だったが講演会で企業、教育等のSDGsに関する取り組みを深く知ることができ、傾向が理解できた。持続可能な観光の認証についてNPOで取り扱っていることもあり、大変参考になった。
- ・大学で知人から誘いがあったのがきっかけ。SDGsを扱おうと考えていた卒業論文の構想を考える良い機会だと思い参加を決めた。有識の参加者とも交流を通し様々な事例を知ることができたため、十分に目的達成できたと思う。
- ・きっかけは、ESD研究所のSDGs教育会についての知らせ。SDGs教育について勉強したいという目的は達成できた。また、ESDやSDGs、そして環境教育のフィールドのみなさんと交流できた。

【問2】各講演会について感想をお聞かせください。

講演①「SDGsの視点からみた生物多様性」

講師：藤田 香 氏／日経 BP 社 日経 ESG 経営フォーラム シニアエディター

- SDGs と ESG の関係や SDGs と MDGs との違いについて、聞きなれない言葉もあり、難しい問題との印象を受けた。SDGs 中の環境問題、とりわけ地球温暖化については、パリ協定の合意により各国が真剣に取り組むべき課題と痛感する。また生物多様性の危機的な状況についても、SDGs に貢献できる部分が多いのではないかと思う。
- 経済界で世界標準として SDGs の達成が求められていることやそれに関連して生物多様性・自然資本経営によって ESG 投資を呼び込む企業の取り組みが興味深かった。
- データでこれだけはっきりと見せられると、世界の流れがわかった。藤田先生の資料の多さに感動した。短い時間で内容の濃いお話で、これからひとつひとつ調べていこうと思った。
- 企業の取り組みについてわかりやすくご説明いただき良かった。SDGs は企業と行政、市民の連携がどのように進められるのが鍵だと、改めて感じた。さっそく、ご著書を購入してネタ本にしている。
- パーム油の RSPO については知識がなかった。一方 MSC についてはある程度の知識はあった。関心のあり様によってニュースも見逃すということだろう。アルファベットの略号の多さ、体系的理解には相当の壁があると思う。日経の ESD については、投資判断要素に組み込まれる環境創出には期待できる。環境税の導入の推進等々。
- 大企業が具体的に取り組んでいる具体例を知り興味深かった。企業で働いていて CSR をよくご存じかもしれないが、そうでなければ知らない人も多くいるように思うので、もっと広く PR したほうがいいのでは。
- 大企業が SDGs にどのようにコミットしているか詳しく知らなかったのが、予想以上に様々な活動をしていることがわかり、イメージが変わった。世界に与える影響の大きい、意義深い取り組みをされていると思いました。
- 企業が ESG 投資で動き出したということは好ましいと感じるが、こうした流れの背景には、環境問題がより深刻さを増している社会事情があると思われた。
- 企業における SDGs の動向が分かって面白かった。日本企業のあり方もどんどん変わっていくのだろうと思う。(そう期待したい) 海外の取り組み事例についても 1, 2 件詳しく聞きたかった。

講演②「白川村の未来の担い手を育てる白川郷学園の教育」

講師：水川 和彦 氏／白川村立白川郷学園校長

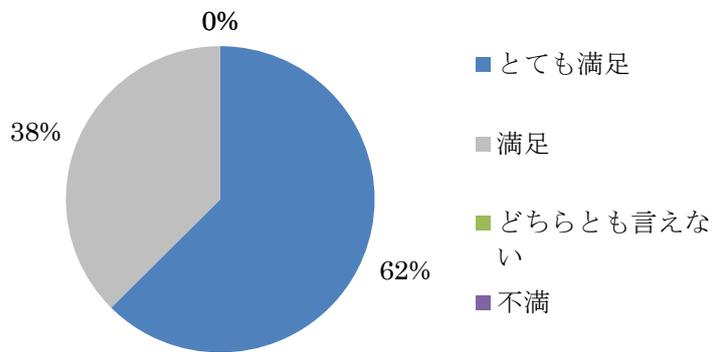
- ・白川村の人口1,633人、小中生116人の義務教育学校白川郷学園の教育目標および指導理念は素晴らしいと思う。コミュニティスクールと地域とコラボする学校づくり、地域への貢献と全国への発信など、子どもたち自らが堂々と白川郷を誇りに思う教育、すべてが教育資源として使える文化遺産等々、ESDの地元学はここで学ぶべきであろう。
- ・進取の気性を持った教育が興味深かった。学校教員の方々も目的や目標が変化した時に教育の力が発揮されることがわかった。地域色が豊かな事例であると感じた。
- ・大変ユニークな授業をされているのに驚かされました。中高一貫校はよくありますが、小中一貫校を公立でやっているのはすごいと思う。小学校の英語教育についても先生が足りないのをどうするか、その一つの答えがここにあった。このような発想を変えた取組みをどんどん増やしてほしい。
- ・義務教育学校については両手を挙げて賛成という立場ではないが、白川郷学園には期待をしている。小さな自治体や地域から学校がなくなりつつある中で、どうすれば学校を守っていけるのか、SDGsやESDの視点から考えたい。
- ・ビジネスマンの話を伺っている様で、非常に分かりやすい講演であった。実践的であり、多くのヒントに富んでいる。各地域でのネットワークが組織されているのだろうか？行政官にとっても示唆的内容だと思うが、全国的な情報共有の組織や仕組みが必要ではないだろうか。
- ・来年以降教員として勤務するのですが、教育活動を構想するうえで非常に参考になった。また、修士論文のテーマにしている「社会に開かれた教育課程」に関わる内容だったので、今後の研究に活かしたい。
- ・斬新な取り組みだと感じ、また、先生の意欲と能力、地域の力を感じた。継続していくための人づくりが重要となると感じた。
- ・非常に興味深い教育実践だった。地域の協力を全面的に得ていることもそうだが、校長先生も大変意欲的な方で、驚いた。実際に小・中学生（と卒業生）が地元の白川郷のことについてどう感じているのか話を聞いてみたいと思った。来年度以降、実際に小学校を訪問する機会とかがあれば嬉しい。
- ・白川郷学園の取り組みは、自分が通っていた学校とは違い、とても魅力のある学校だった。卒業生たちが、卒業するときに、先生として帰ってきたいと話していたということを知り、これが、地域の本来あるべき姿だなと思った。

講演③「SDGs を伝える手法」

講師：上田 壮一 氏／一般社団法人 Think the Earth 理事

- ・講演の中で「子どもたちが SDGs を学んでいる。大人も学んで同じ土俵で未来をつくりたい。by 森さん」の言葉が印象に残った。早速、『未来を変える目標 SDGs のアイデアブック』を購入し読んでみた。とても分かりやすい。「人はなぜ社会や環境問題が自分事にならないのか?」、深く考えさせられる講演内容であった。
- ・「無関心」を「好奇心」に変えることや多くの人に社会行動を促すために「心を動かす」ことなど目の覚めるようなデザインがアクションを起こす動機につながることを学ぶことができ大変興味深かった。また、17歳の学生や71歳の方の取り組み事例も大変励まされた。
- ・数々の映像が訴えるものがあった。自分が何を成すべきかを、気づかせてくださったのは上田先生のお話でした。まだまだ課題だらけですが、とにかく、一步を踏み出せたと感じます。このお話を聴くことができ、本当によかったと思う。
- ・電通の経験からか、マーケティング的アプローチは新鮮だと思う。若いアントレプレナーにも通じる感性をお持ちだと感じた。企業向けの教育に加えて、投資判断等の見える化の教育も組み込まれると、The Earth の事業規模も拡大できるのではないだろうか？ 認証機関とのアライアンスはどうだろう。
- ・「デザイン」という手法に対する視点が大きく広がり、身の回りを更に観察してみようと思った。特に、ハッシュタグもデザインの1つであるという流れは自分の研究に役立てられると感じた。
- ・デザインとSDGsは、まったくもって結びつかなかったのが、はじめは懐疑的に話をいかかっていたが、いかに自分が無知であるかよくわかった。またこんな素晴らしい高校生がいるのかと非常に感動した。他人事から自分事にするために必要なことを一番考えさせられた講義だった。
- ・広告業の観点からSDGsをとらえることに対し、最初は抵抗があったが、人の心を動かしてから、行動につなげるまでの手法として非常に参考になった。
- ・多角的な分野におけるSDGsにつながる取り組み事例を聞くことができ面白かった。デザイン（場やシステムのデザインも含め）がSDGsの推進に向けた重要な要素になっていることを感じた。
- ・非常に刺激的な講演であり、感動しました。人々の選択にいかにか影響できるか、そして正しい選択の重要性を教えられ、私たちも研究や活動の面白さや大切さを知らせるヒントをいただいた。

【問3】白川郷世界遺産の見学についての満足度をお聞かせください。



とても満足 ⇒ 10名

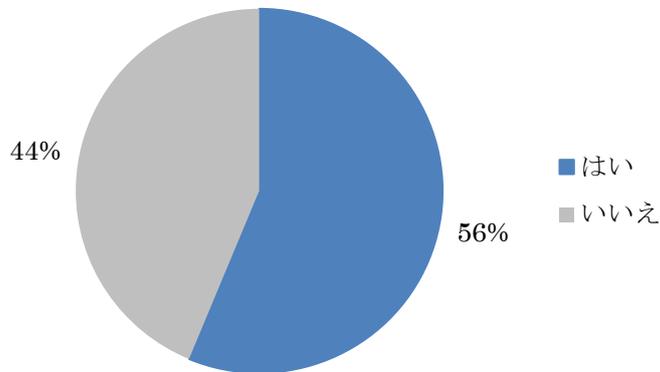
- ・白川郷については今まで写真や映像でしか鑑賞していなかったが、実際に白川村、合掌造りを見学して、日本の伝統文化として後世に残すべき遺産であると実感した。村の案内人も地元を誇りにしていることが説明を聞いていて伝わってきた。
- ・さすが世界遺産であると思った。今回は晴天で更に山の紅葉もきれいで来て良かった。ガイドの説明でさらに理解が深まった。ただ時間がなくて合掌造りの内部まで見学できなかったのが残念。
- ・観光資源としてだけでなく、地域社会をより強固に維持していくための住民の意識はどのようにあるべきかを学ぶことができたため。
- ・白川郷を見学でき、沢山の魅力を発見できた。普段自分の住んでいるところとは別世界で、世界遺産の雰囲気味わえた。貴重な体験をありがとうございました。
- ・白川郷は日本人でももちろん、外国人にとっても最も日本的で行きたがる場所で世界遺産でもあるので非常によかった。古い歴史から今の時代の生活も含めて教えていただけた。

満足 ⇒ 6名

- ・ガイドの方の説明も面白くファーストインプレッションは非常に満足。世界遺産の登録から歴史ある地域であり、押し寄せる観光客の中で、既存住民や生活の変化、課題は山積しているであろうが、農林業も含めた持続性その課題について(休耕田)見る機会があってもよいのではないかと。
- ・白川郷に行くことができたのはとても良かったが、移動時間の拘束が長いことを考えると、もう少し白川郷とつながりのある形で講義やワークが展開されるとなお満足度が高かったかなと思う。
- ・前半ガイドがあったのが、学びの助けになりよかった。しかしガイドを聞いた分、よりじっくり見学したり、観光したりしたいと思ってしまったために時間が足りなかったように感じた。

どちらとも言えない、不満、とても不満 ⇒ いずれも0名

【問4】自然学校のプログラム<朝のガイドウォーク>は参加されましたか？



はい ⇒ 9名

- ・都会の喧騒から逃れて朝の森の中を散策する機会はほとんどなかったので、気分的にもリラックスできて良かった。女性ガイドの草木の詳細な話に耳を傾けながら、自然を観察することの楽しさを教わった。朝の散策としては、無理のない行動範囲であり時間的にも適当であったと思う。
- ・環境教育に携わる者として、このようなプログラムは基本であり、楽しみな企画であるとともにガイドの方の人柄も気持ちの良いものでした。
- ・物凄く、良かったです。初めて見た秋色のナナフシ。ブナの木、昆虫、動物の録画記録まで、ガイドさんのお話は準備周到で、さすがプロだと感心いたしました。用意された写真でとてもよく分かりました。これに参加しなければ白川郷の自然はわからなかったと思います。
- ・森林の木々や鳥の声の説明を朝の爽やかな空気の中で歩きながら聞いたのは良かった。
- ・スタッフの案内がよかった。夜も話すことが出来、自然学校に働く若者の意識、キャリア選択の話をする機会があり新鮮だった。優秀な自然保護レインジャーのキャリアパスが日本でも確立できればよいのだが。
- ・朝、空気が澄んで少しピリッとした寒さの中、ガイドさんの面白いお話を聞きながら、気持ちの良い自然散策ができてとても楽しかった。
- ・トヨタ白川郷自然学校のガイドウォークは数回受けていますが、プログラムやコンセプトが良くできていると思います。ガイドのキャラクターによる持ち味も良く、新しいスタッフがベースとなるプログラムをアレンジしながら、日々発展されているようすがすごいと思います。
- ・とても良かったです！というのも、気になることを質問するとすべて答えてくれるほどガイドさんの持っている情報量の多さに感動しました。単純に朝の散歩は気持ちよかったですし、他の参加者の興味関心ところも多く時間が足りなかったくらいです。

- ・森の中に歩きながら色々な植物や生き物について勉強できたと思います。

いいえ ⇒ 7名

**【5】施設の利用についてお気づきの点がございましたらお聞かせください。
〈宿泊のお部屋、食事、会場、温泉など〉**

- ・施設については申し分のないくらい快適であった。ただ、季節的にカメムシの大量発生には驚いた。施設内のあちこちにカメムシに対する注意書きが貼り出されており、戸惑いながらも対応ができたのが良かったと思う。
- ・カメムシの多さにびっくり！カメムシも嫌いではないのですが、目に体液が入った痛さを実感いたしました。こちらに戻って病院に行きました。食事、寝具、会場、温泉など大満足です。16,000円で行ったことが幸せでした。学生にとっても良い体験になったと思う。
- ・満足です、特に温泉はとても気持ちいい。
- ・部屋のトイレと洗面台が同じ場所にあり使いづらかった。トイレは独立のほうが良い。レストランの食事は量・質ともに満足でした。初日の夕食の鍋も悪くはなかった。二日目のフレンチは期待以上だった。
- ・素晴らしい！カメムシとの共生も、環境教育の視点から言えば、良い学習になった。
- ・カメムシとの添い寝も良しとして、施設はさすがトヨタと感心。 企業による会員制の自然学校施設の可能性も感じる。
- ・温泉やお料理は格別だった。全体的に清潔感もあり、非常にリラックスして過ごせた。
- ・カメムシがあんなに多いとは知らず驚いた。部屋にプリントはあったが、入る前にこの状況と対処方法の説明をしてほしかった。食事や温泉、会場、接客は満足。
- ・大変きれいな施設で、とてもよかった。
講義中にカメムシが飛んでくるのが少々気になりましたが、時期的に仕方のないことだと思う。
- ・食材量が年齢層に対し、満足いくようにとの配慮がとても多く用意して下さった気がしました。
宿のカメムシに関してはあまりない体験なのでむしろ楽しかった！
- ・食事もとてもおいしく、楽しい時間が過ごせました。カメムシがたくさんいたこと。部屋がカメムシのにおいで充満したときに、替えの部屋がなかったことは少し残念でしたが、そういう時期にたまたま行ってしまったので、しょうがないかなと思う。

【6】その他、お気づきの点など自由なご感想をお聞かせ下さい。
<開催時期、プログラム、交通手段（バス）、参加費など>

- このような「業界のトップランナー」の方々から学べる企画を今後もお願いしたい。そして、もっと多くの方が学んでほしいと感じた。バスは少々辛い面もありましたが、開催時期、プログラム、交通手段（バス）、参加費など大変有り難いものでした。先生方、ありがとうございました。
- プログラムは問題ないです。各講演の時間が少し足りないと思うが、限られた時間内では難しいと思う。交通手段のバスも費用を考えるとやむを得ない。参加費はすごい安い。立教大学一般学生の参加が少なかったのが残念。
- 参加費がリーズナブル。参加者が多様で刺激的だった。学部の学生にとっても有意義だったのではないと思う。RSSCのシニア層もこの分野で継続的にかかわる方法があれば何かの役に立つのではないだろうか。受け皿を考える必要がある。学部学生には学割を適用したらもうすこし、参加しやすいのではないだろうか？
- プログラムは第1回ということで先輩に聞く等比較できないが、RSSCの中には企業でいろいろ実践された方もいらっしゃると思う。そういう意味では大学生や初心者向けで主婦の私には学ぶことが多く満足した。バス異動のため遠い行き帰りが非常に楽だった。参加費が安すぎて申し訳ないくらい。思いがけず他大学の先生や学生さんと話したり、先生方の高度な掛け合い漫才が楽しかった。充実した二泊三日をありがとうございました。
- 日程変更を直前まで理解しておらず、往路を慌てていましたので現地についてから拍子抜けしてしまいました。きちんと確認していれば良かったです。また、帰路は偶然にも高速道路のメンテナンスに時間がひっかかっていることを知らず出発し、時間をかけて下道で帰った。参加費は破格に安くしていただいて、感謝しかない。
- 食事やバス、施設の充実さを考えると大変安い参加費でした。少々を欲をいうのであれば、学生割引をつくっていただくと学生はもっと参加しやすいのかなと思います。
- 年齢も所属も様々な人と、さらには同じ興味関心を持っている方々と関われる機会はそうそうないので、総じてとても良いプログラムだったと思います！ただ少しプログラムが詰め込まれすぎて時間に追われていたのかなとは思った。
- 参加費が安くてよかった。もっと違う団体の方と交流できる機会が多いと、より仲良くなれたかなと思う。